

2005 年日本国際博覧会の関心度に関する調査研究

名城大学理工学部 正会員 伊藤政博
名城大学理工学部 学生 ○横井雄一

1. はじめに

1988 年に 2005 年日本国際博覧会（以下愛知万博）の構想が出されてから 2003 年まで 15 年が経過した。この間、会場予定地には動植物の環境問題が大きくクローズアップされ、会場候補地が大幅に変更されるなど、右余曲折を経てきた。このような経緯を得て愛知万博は、平成 16 年 3 月 25 日の開催に向けて会場の建設が進められている。この愛知万博の推移に対して社会はどのように反応しているか興味のあるところである。本研究は、情報源として新聞記事を用いて、社会の動向と関心度を調査した。

表 - 1 開催概要

正式名称	2005 年日本国際博覧会
愛称	愛・地球博
テーマ	Beyond Development Rediscovering Nature's Wisdom 「新しい地球創造：自然の叡智」
開催地	愛知県長久手町/瀬戸市/豊田市
開催期間	2005 年 3 月 25 日から同 9 月 25 日までの 185 日間
出展参加	121 カ国 8 国際機関予定入場者数 1,500 万人
会場面積	長久手会場（約 158ha） 瀬戸会場（約 15ha）

2. 愛知万博の概要

愛知万博はテーマを自然の叡智とし、これまでに人類が獲得してきた経験と知識と知恵のすべてを傾けて、新しい文化・文明の在り方と、21 世紀社会のモデルを、世界中の人々との多彩な交流を通じて実現することを目指す万博である。

愛知万博を開催するためには広大な会場が必要になる。この会場建設に伴って生じる環境破壊が問題になっている。図 - 1 は、現在に至るまでの会場の変遷をまとめた。平成 10 年 7 月の計画では、海上の森を会場として、跡地に名古屋市東部丘陵研究学園都市を建設することが目的だった。しかし、海上の森にはシデコブシ及びオオタカなど絶滅危惧種をはじめとする多くの植物の生育と動物の生息が認められたために、環境保護団体及び地域住民の強い反対にあい、最終的に主会場は青少年公園に移した。

国際博覧会の形態が、時とともに「国家と企業」から「市民を主にした祭り」へと変わってきた。そのため、「愛知万博」は「市民参加型の万博」といわれるゆえんである。最近では、万博の工事現場を一般に開放し、市民の理解を得る努力、さらに市民の参加を呼び掛けるなどさまざまな企画を用意している。

3. 調査方法

(1) 新聞記事の中で愛知万博に関連したキー

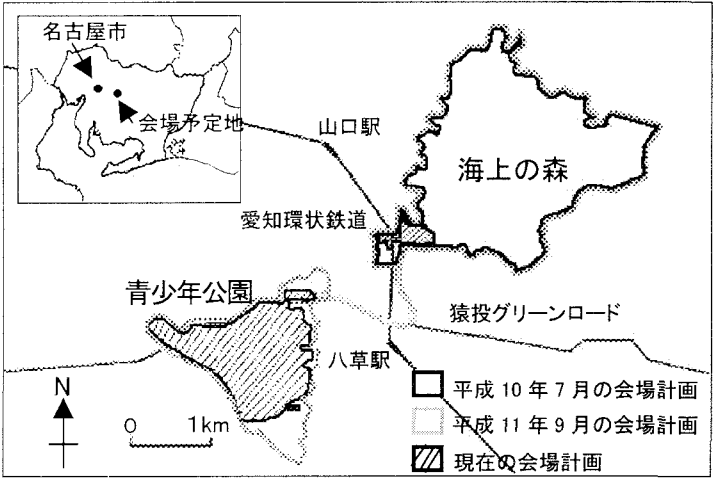


図 - 1 会場変遷図

表 - 2 使用したキーワード

NO	キーワード	NO	キーワード	NO	キーワード	NO	キーワード
1	環境	13	見直し	25	シデコブシ	37	入場券
2	計画	14	アセスメント	26	ハチクマ	38	マンモス
3	テーマ	15	辞任	27	建設費	39	トヨタ
4	HSS	16	参加	28	パビリオン	40	PR
5	推進	17	出展	29	エネルギー	41	ボランティア
6	反対	18	決定	30	環境破壊	42	コモン
7	オオタカ	19	道路	31	市民参加	43	輸送
8	新住事業	20	内容	32	工事	44	バリアフリー
9	構想	21	市民団体	33	跡地	45	東部丘陵線
10	調査	22	フォローアップ会議	34	リサイクル		
11	海上の森	23	ゴンドラ	35	循環		
12	青少年公園	24	基本計画	36	グローバルループ		

ワードの出現頻度を調べる。本研究は愛知万博に強く関係するキーワードとして、表-2に示した45キーワードを検索する。新聞としては朝日新聞社のホームページに掲載されている記事を使用する。

- (2) 2000年から現在までの4年間の新聞記事中に使われているキーワードの数を調べる。キーワード数を1ヶ月ごとに集計して、その経年月の変化を調べる。
- (3) 読売新聞と中日新聞についてもキーワードの数の出頻率の経年月変化を調べて比較する。

4. 調査結果と考察

博覧会協会が挙げているキーワードは「環境」と「市民参加」である。図-2は、キーワードとして「環境」、「工事」、「海上の森」、「青少年公園」の出現件数の経年月変化をまとめたものである。「環境」は全体的に多く2000年7月に最も多く出現している。これは、愛知万博検討会議で問題になった海上の森の利用について決定した時期である。2001年10月の基本計画の発表までは会場利用計画について議論されたため「環境」、「海上の森」、「青少年公園」が多く出現している。「環境」のキーワードが多く出現している月は、2001年11月の名古屋環状2号線の建設、2002年6月のゴンドラの建設といった万博関連の施設建設による議論がされた時期である。そのため、「工事」のキーワードもその時期に多くなっている。

「市民参加」のキーワードが図-3にまとめてある。この図から全体的に出現数が少ないことがわかる。他社の新聞記事と比較からみても全体的に少ない。「参加」のキーワードの出現数は多い。これは、万博に参加する海外諸国の参加に関する記事が多いためである。

2003年12月時点で愛知万博に参加する国は121カ国8国際機関である。この数は、これまでアジアで行われた万博の中で最も多い数である。世界で万博への関心度が低くなっている中でこれだけの国々の参加を実現できたことは評価できる。しかし、肝心の市民参加がおろそかになっている。

環境の万博は、実現に向けて建設は順調に進んでいるが、さらに今後市民参加型の万博の内容にすることが必要である。

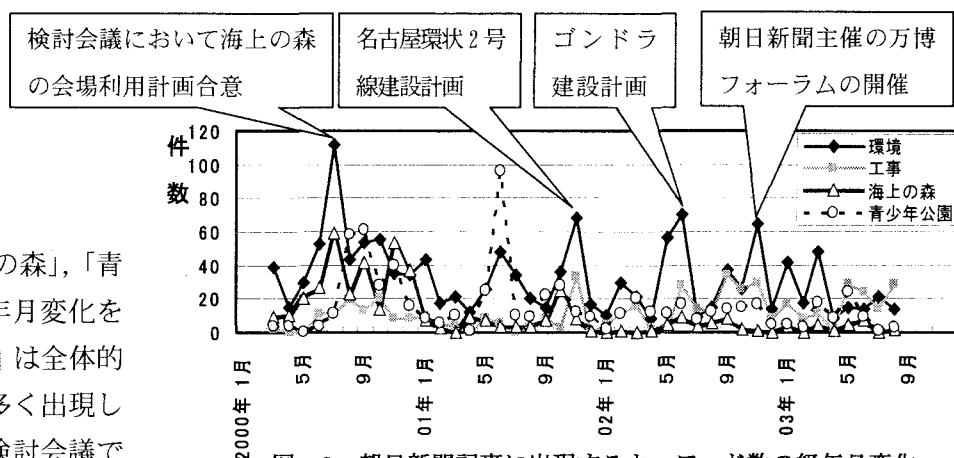


図-2 朝日新聞記事に出現するキーワード数の経年月変化

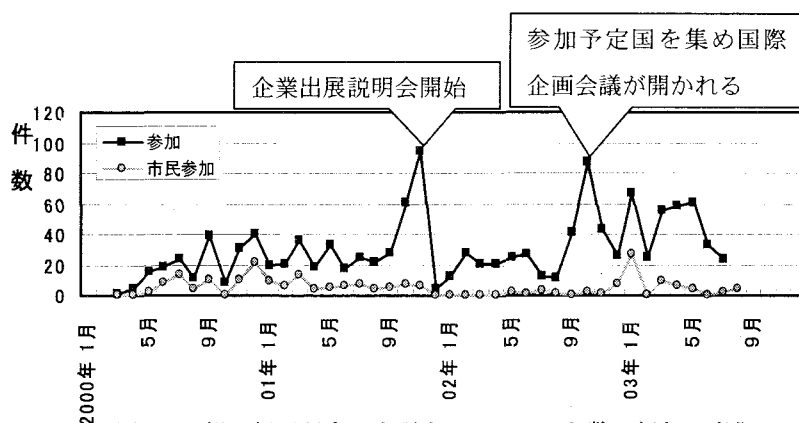


図-3 朝日新聞記事に出現するキーワード数の経年月変化

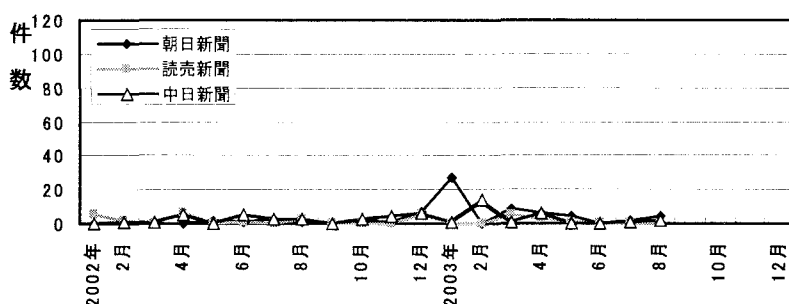


図-4 朝日新聞、読売新聞及び中日新聞のキーワード数(市民参加)の比較